

木造建築の伝統技術学ぶ

松本で大工養成セミナー

県建設労働組合連合会(県建設労連)は23日、松本市寿北7の県松本技術専門学校で、信州伝統大工養成セミナーを開いた。建築の可能性をテーマにした講



建築の可能性に関する講演を聴く参加者

演会などがあり、加盟労組の組合員ら計約50人が参加した。都内で構造設計事務所を営み建築関係の賞を多く受けている山田憲明さんが「木造建築

の未来への可能性を求めて」と題して講演し、手掛けた建物を紹介しながら、それぞれに使われている多彩な設計技術を説明した。そのうち、仙台市の

東北大学大学院環境科学研究所エコーラボの建

物は「非常に柔らかい」構造で、東日本大震災では穏やかに揺れてガラス1枚割れることなく耐えたとし、「シンプルな構造の積み重ねだが、十分に機能した」と話した。県建設労連は6、11月、伝統技術を生かした施工が可能な大工を育てる「信州職人学校第3期伝統大工基礎コース」の開催を予定している。4月から受講者を募集するのに合わせてセミナーを開いた。(石尾 出)